

植物とのふれあい・学び

発行：理学研究科・植物管理室 2018年2月

植物管理室では、園内での活動を中心に、温室や園場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。

寒波到来！ “厳しい寒さに包まれています”



生態実験園に積もった雪も日陰では残雪となり、しばらくは溶けずに残っています。ため池には氷の層の上に雪が降り積もって、実験園の凍てつく寒さをいっそう感じさせる景色となっています。



厚い氷の張った水辺

ここ何年か振りの大寒波が東広島キャンパスにも訪れています。園内でも気温の上がらない寒い日が毎日続いています。温室内は暖房をしていますが、それでもなかなか温度が上がらず、熱帯性の植物には辛い冬になっています。



例年だと、生態実験園では二ホンアカガエルの産卵が始まっていますが、今年は、氷の張った水辺にカエルたちも戸惑っている気配です。樹木の芽もまだ固く閉じてはいますが、春への準備は確実に進んでいるようです。

園内樹木の剪定



園内を管理していく上で、草刈りとあわせて、樹木の剪定は非常に重要な作業です。適度な剪定をすることにより成長が促進され、病害虫の予防にもなります。

樹木園にて、落葉樹を中心に樹木の剪定を行いました。今年は特にグミ、フェイジョア、カラタチ、イチジクなど果樹の剪定に重点を置いてハサミを入れました。



やっかいなつる植物は、放置しておくと木が弱ってしまうので今のうちに切り詰めておきます。

学内花壇のハボタン

花壇にハボタンを植えました。ハボタンはお正月のイメージがありますが、春までの長い間、パンジーとともにキャンパスの冬を明るく彩ってくれます。



理学部正面玄関前のハボタン。冬の花がない季節に目立ちます

栽培実習・秋コース



植物栽培入門講座は、秋コースが終了しました。ダイコン、ハクサイ、キャベツ、フロッコリーなどたくさん野菜を作ることができました。自分たちで収穫した野菜を使って、鍋とおでんを作り試食を行いました。みんなでしめ縄作りにも挑戦し日本の伝統文化を学びました。



実習が終了しても、冬の間も野菜の収穫は続きます。みなさん、最後の方には収穫する手つきも良くなってきました。



学童保育の体験



40分程度火の中に入れておくとしっとり、ほくほくとした焼き芋ができあがりました。このじんわりとした火で焼くのが美味しさの秘訣です。もちろん、サツマイモは園内で秋に収穫したものです。子どもたちにとっては、貴重な体験となりました。

12月26日に園内の園場にて、学童保育の小学生12名が、焼き芋作りを行いました。この企画は、毎年実施している園内の剪定枝の焼却にあわせて行っているものです。木枝の焼却によって出来た熾火（おきび）の中に、アルミホイルでくるんだサツマイモを入れました。



園内の花

センリョウ *Sarcandra glabra*



センリョウ科 千両。
関東地方以西の暖かい樹林下に自生する常緑小低木。正月の縁起植物として古くから人氣が高く、栽培される。黄色の実をつけるキミ/センリョウもある。

園内の木

オオマンネラン *Furcraea foetida*



リュウゼツラン科
コロンビア原産の常緑多年草。草丈は7mくらいになる。葉は披針形でロゼット状に生える。葉先や縁に棘があるが鋭くはない。リュウゼツラン属に近い仲間。



【お問い合わせ先】

広島大学理学研究科
植物管理室

TEL: 082-422-7111
(内線2842)

E-mail: tshioji@hiroshima-u.ac.jp